

6. 相馬市 令和4年福島県沖地震のため、相馬市は激しい状況にある

橋本 彰

◇訪問日時：令和4年12月10日（土） 午後16時～17時30分

◇行程：市内被害状況をバスで視察 → 市役所にて被害状況など説明 → 懇親会

◇対応者：相馬市産業部長 伊東充幸氏

1. 伊藤氏のはじめの言葉 「数々の自然災害が頻発、深刻な状況」

「令和に入り自然災害が頻発し、市民生活に甚大な影響が継続して押し寄せている状況に加えて新型コロナ感染症拡大の長期化により、市内経済状況はかなり悪化していると思料。

特に、令和4年地震被害にあっては、令和3年2月地震の復旧工事が終わったか終わらないかのうちに、再度被災しているため、2重債務を抱えるなど深刻な状況となっている。」



伊東部長の説明(翌日の査定を控え、設計書が山積みの部屋で)

2. 相馬市の紹介 「たくましく。地域、暮らしをともに創り、誇りを持てる相馬市へ」(相馬市の将来像)

○人口 3万4千人

○歴史・文化 「相馬野馬追」 一千有余年受け継がれる行事

○自然探索 「松川浦」 日本百景 江戸時代からのリゾート地

○社会基盤 「相馬港」 重要港湾 広域経済圏の物流の拠点 (相馬市市勢要覧 2022 より)

3. 令和に入り、自然災害が頻発した

○令和元年10月12日 東日本台風並びに10月26日の大雨による市街地浸水災害

・激甚災害指定される

・相馬市制発足以来 最大の浸水被害 (線状降水帯に遭遇、3200戸浸水)

○令和3年2月13日 福島県沖地震 震度6強地震災害

・激甚災害指定される (気象庁が東日本大地震の余震との判断があった)

○令和4年3月16日 福島県沖地震 震度6強の地震災害

・激甚災害指定ならず

4. 令和4年福島県沖地震 「一番強烈な揺れであった」

・市民の印象としては、令和4年3月の地震は東日本大震災からの大きな地震3回のうち、一番強烈な揺れであったとのこと。

・それを裏付ける科学的根拠は、最大加速度657gal 東日本大地震の1.7倍

東日本大震災の最大加速度を100%とした場合				強度増減%
平成23年東日本大震災	M9.0	最大加速度	推定 382gal	100%
令和3年2月の福島県沖地震	M7.3	最大加速度	推定 366gal	95.8%
令和4年3月の福島県沖地震	M7.4	最大加速度	推定 657gal	171.9%

・伊東氏の感想「ドドドとゆれる。東日本大震災は2分間ゆっくり。家の家具全部倒れる。今回の地震被害が一番大きい初めての経験だった」

○激甚災害指定ならず

- ・気象庁が余震でないと判断。
- ・国の判断：被害は甚大だが範囲が狭い（南相馬から山元町まで、30km×60km）

○相馬市の財政負担が増大

- ・激甚災害指定（補助率98%）にならないため、通常の補助率（3/4、2/3、1/2）となり、市の裏負担が激増
- ・市長も財政負担が増加することがわかった段階で、当初予算を凍結した。令和4年事業に影響している。
- ・度重なる被災であることを考慮し、グループ補助金の適用は認められる。
旅館の復旧工事について、グループ補助があっても裏負担分がいるため、運転資金に回す資金がなくなるなどの影響が出る。廃業に追い込まれる。

○令和4年福島県沖地震による被害

東日本大震災は、地震被害というよりは津波被害であった。この3回の地震被害としては、今回の地震被害が一番大きい状況。

- ・地震による水道管の漏水により市内要所で8日間の断水（その後も一部地域では断水継続）漏水箇所は600か所以上 全国より給水車を9台応援受け市内給水活動実施
自衛隊は主に病院への給水支援を実施。
- ・自治体から延べ9名の技術系人的支援を受ける。
- ・ため池などの農業用施設の被災
- ・道路の隆起陥没（市道だけで約600か所）、マンホールの隆起等による修繕必要箇所約700か所の復旧が必要
- ・市内の学校を含むほとんどの公共施設も修繕の必要
- ・家屋などの被害状況

	罹災証明	全壊	半壊以上	半壊以下	公費解体
住家	5629件	41棟	1359棟	3946棟	319棟
非住家	2673件	305棟	993棟	1276棟	712棟
計	8302件	346棟	2352棟	5222棟	1031棟
参考R3.2地震		43棟	272棟	3644棟	

○観光地松川浦周辺の被災

- ・松川浦は白砂清水の観光地
- ・東日本大震災時、観光道路大洲松川線15キロが3か所寸断、復旧に8年かかった。
- ・今回の地震で観光道路に被害があり通行止となったが、半年で開通させる
- ・鶴ノ尾崎のトンネル近くの崖が崩壊。



崩壊した崖の復旧工事の状況

- ・松川浦周辺の宿泊施設は壊滅的、現在復旧中で営業再開できず。
 - ・宿泊施設は、東日本大震災以前 100か所 ・大震災後 50か所に
 - ・令3、令4地震後 32か所 ・現在20か所営業、残り工事中
- 東日本大震災から戻りつつあったが、令和3年、4年の立て続けの地震で廃業が進む。今後の地震への不安もある。観光業の状況は 1/8~1/9 ぐらいに落ち込んでいる。

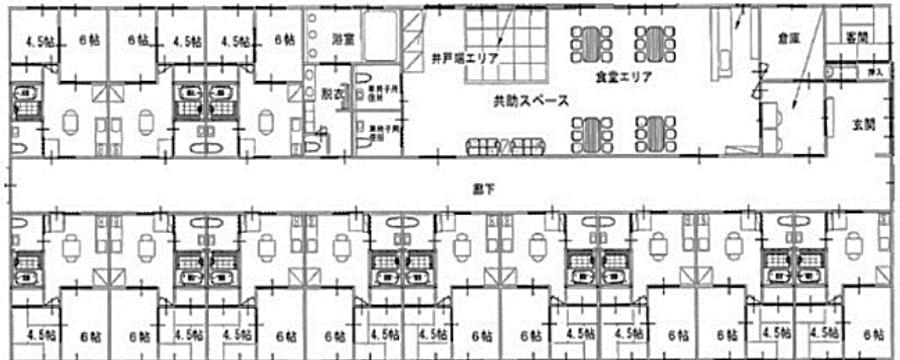
○相馬港の岸壁、水産業協同利用施設、漁港の岸壁、や背後地の被災

- ・岸壁は、1か所のみ耐震で3cm沈下したが、ここだけ荷揚げできている。他は使用できず。復旧工事は現状回復までで、耐震まで認められなかったが、市長が頑張って耐震まで認めてもらうことになった。
- ・水産庁の手続きは複雑で、やっと、令和5年1月から工事に着手できる。復旧は令和6年までかかる。

5. 井戸端長屋の運営状況



井戸端長屋 馬場野①②



○井戸端長屋の当初のねらいー共助の精神で共同生活し、被災高齢者の孤立を防ぐ

- ・共助精神が反映されるよう昼食は共同食堂で一堂に会して取るなどの工夫
- ・井戸端に住民が集まったイメージで、共同のランドリースペースを実現
洗濯機が共用であり、不人気であった。
- ・市長の肝いりで社会実験として実現

○井戸端長屋の現在の運営状況

整備場所	整備戸数	入居世帯数	入居人数	空戸数
馬場野①	12戸	11世帯	11人	1戸
馬場野②	12戸	12世帯	13人	0戸
狐穴	12戸	12世帯	12人	0戸
南戸崎	10戸	9世帯	11人	1戸
細田東	12戸	12世帯	13人	0戸
計	58戸	56世帯	60人	2戸

- ・58戸のうち、空き家2戸
- ・平成30年ごろから、入居希望が多くなる。入居するといろんなサービスが受けられるので、ここに入居すると安心という評価が広がる。
- ・ほとんどが単身高齢者 平均年齢80歳 ヘルパーを利用している方は半数程度

- ・入居者の管理については、管理人3人を雇用し、順番に5か所の井戸端長屋を巡回し、共有スペースの掃除や、毎日、戸別毎の配食サービスによる昼食の提供により、安否の確認と、入居者の要望確認している
- ・初期の共有スペースに集まったの昼食会はどの井戸端長屋でもおこなわれていない。
- ・その他の行政サービス
 - ・週1度の病院送迎
 - ・チャルメルカーによる買い物支援
 - ・お出かけミニバスによる支援
 - ・年に複数回、保健師による健康チェック
- ・これらのサービス提供の財源は、市の独自予算・復興交付金の支援総合交付金と相馬市のこれら取り組みを応援いただける寄付者からの寄付を相馬市被災高齢者等地域生活支援基金に積み立てて活用している。
- ・相馬市被災高齢者等生活支援基金には、年に、500万～600万円の寄付がある。

○課題

- ・入居者の高齢化による認知症等への具体的対応
- ・管理人のきめ細かな対応支援
- ・移動支援（個別要望）への柔軟な対応



チャルメルカー



お出かけミニバス

*市長インタビュー 立谷秀清相馬市長 月刊「政経東北」2022年12月号より

当日配布された月刊「政経東北」の市長インタビューの記事を紹介します。現在の相馬市の実情がよくわかります。

—3月の地震で大きな被害を受けました—

『東日本大震災から11年8か月経ちますが、復興を遂げつつあった中で昨年2月、今年3月と立て続けに地震に襲われ、市民の間には「大地震がまた来るのではないか」という憂鬱感が広がっています。そこに追い打ちをかけているのが、新型コロナの影響による閉塞感と国際情勢の不安定さです。災害から復旧を果たしても、新型コロナの影響があって商売が上手くいかない、そこに原油高、円安、物価高が重なり、相馬市は激しい状況にあるというのが実感です。』

—観光振興への取り組みは—

『3月の地震で通行止めが続いていた市道大洲松川線が10月20日に通行再開しました。同線は海岸堤防上などを走る観光道路で、2020年10月にオープンした浜の駅松川浦、今年10月に物産館がリニューアルされた道の駅「そうま」、さらに磯部加工施設の直売場を有機的に結び付ける役割を担ってます。核施設とも評判は上々ですが、今後の課題はこれらの施設を訪れた方々をどうやって街中に誘導するかです。例えば相馬市では現在、相馬で水揚げされる天然トラフグを「福とら」の名でブランド化してPRに努めており、街中でトラフグ料理を味わってもらおうのも一つのアイデアだと思います。』

また、新型コロナや地震の影響で旅館などが激しい状況にあるので、市内に整備したサッカー場、ソフトボール場、パークゴルフ場などを生かした合宿の誘致も検討したいですね。』